



平成23年6月16日

直受部 川井 康年

石巻ボランティア活動レポート

6月11日(土)～6月15日(水)の5日間、宮城県石巻市に災害ボランティア活動に行きました。率直な感想を言いますと簡単な言葉では言い表せない出来事だったと思います。

高速で仙台に入った時に沿岸部より数キロ離れているにもかかわらず、がれきや車が流れついているのに驚き石巻はもっとひどいのかと思いました。実際石巻市に入り専修大学へ行くまでの間は激しい損傷も見られず、お店も営業しておりかなり復興していたのだと思いました。しかし、末永さんの所に訪問する途中から町の様子が一変し、ショックを受けました。

その後、末永さんの案内により石巻の一番被害の大きかった場所に案内された時はあまりのひどさに言葉も出ませんでした。末永さんの話を聞き、震災直後は本当にひどい状況だったのだなとわかりました。ちょっとずつですが復興に向かって進んでいると聞き、協力したいという思いが強くなりました。

現地に着いて2、3日目、実際にボランティア活動をしてみて、自分1人では微力すぎてなにもできないですが、ボランティアで集まったみんなで協力をすれば大きな力になり復興に向けて進んで行けるのだなと感じました。ボランティア活動以外のテント張り、食事等も同じでメンバーの協力があってこそ成した事だと思います。普段の生活でも協力は必要ですが、当たり前の事だったのでその大事さを忘れていました。これからは協力するという事などを大事にし、何事も取り組んでいきたく思います。

また、普段当たり前に行っていたちょっとした事でも現地では満足にできないという場面も多々あり、自分の普段の生活環境は本当に恵まれているのだと感じました。現地の方は当たり前の事が出来ないなかで1日1日を必死に生きておられました。毎日の些細な出来事、簡単にできた事についても感謝の気持ちをもつよう意識したく思います。

今回貴重な体験ができましたが、今までと同じように生活していくには行かせていただいた意味がなくなりますし、自分の為にもなりません。今回の体験を生かし自分の成長、会社の躍進、日本経済の復興そして社会の発展につながるよう工夫また努力していきたく考えます。